

電力ケーブル絶縁診断記録

試験月日 平成 年 月 日 試験実施者 小林

天候 晴 気温 26 °C 湿度 52 %

線路名 第4キュービク送りその1 ケーブル
 区間 第1キュービクル LBS 2次 ~ 構内第1柱第4キュービクル送り架空線
 ケーブル種類 6KV CV 3C - 22 sq

直流漏れ電流法
 印加方法 三相一括 - アース間に印加
 印加電圧 第1ステップ° 3,000 V 第2ステップ° 6,000 V

漏れ電流測定値

印加電圧 (V)	漏れ電流 (μA)		経過時間	漏れ電流 (μA)		経過時間	漏れ電流 (μA)	
	全体	シールド°		第1ステップ°	全体		シールド°	第2ステップ°
1,000	0.2	0.1>	直後	0.5	0.1>	直後	1.0	0.1>
2,000	0.3	0.1>	1分	0.45	0.1>	1分	1.0	0.1>
3,000	0.5	0.1>	2分	0.45	0.1>	2分	1.2	0.1>
4,000	0.7	0.1>						
5,000	0.8	0.1>						
6,000	1.0	0.1>						

漏れ電流判定値 (CVケーブル) シールド漏れ電流で判定
 0.1 μA以下 良 0.1 μA ~ 1.0 μA 要注意 1.0 μA以上 不良

電流-時間特性
 成極比 = $\frac{\text{電圧印加1分後の電流値 (電圧印加規定時間後の絶縁抵抗値)}}{\text{電圧印加規定時間後の電流値 (電圧印加1分後の絶縁抵抗値)}}$ = _____ =
 (1.0以上)

絶縁抵抗-電圧特性
 弱点比 = $\frac{\text{第1ステップ電圧の絶縁抵抗値}}{\text{第2ステップ電圧の絶縁抵抗値}}$ = _____ =
 (3.0以下)

相間不平衡率 (100%以下)
 = $\frac{\text{3相中の漏れ電流値の最大値} - \text{最小値}}{\text{3相の漏れ電流値の平均値}}$ = _____ =

放電性電流の有無のチェック
 電流-時間特性 (記録カーブ) にキック現象のあるもの、電流値が増加するものをチェックする
 キック現象、電流値の増加 無し 詳細は記録カーブ参照

結果 不良 絶縁診断では顕著に不良と判断されないがシース内に雨水が浸入しているため不良と判断する

絶縁診断特性カーブ

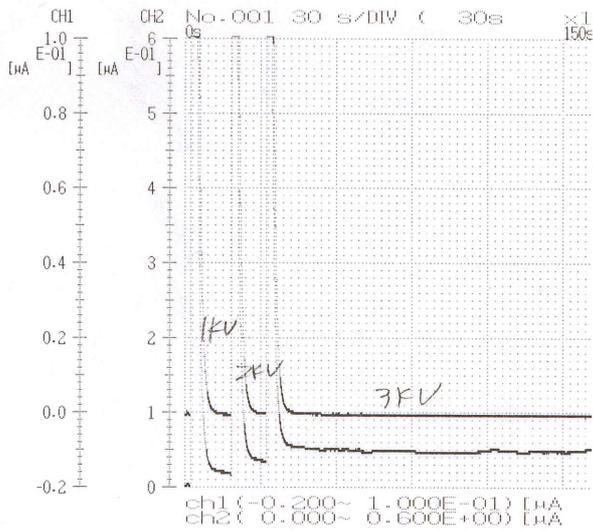
チャートスピード 30SCE/DIV

CH1 ケーブル全体漏れ電流 $-0.2 \sim 1.0 \mu\text{A}$

CH2 シールド漏れ電流 $0 \sim 6.0 \mu\text{A}$

線路名 第4キュービク送りその1 ケーブル

ステップ1 DC 3,000V 印加



ステップ2 DC 6,000V 印加

